

産業廃棄物処理業は環境ビジネスとして資源再生業に 株式会社ダイトク

産業廃棄物処理業界が大きく様変わりしている。未だに不法投棄が散見される今日だが、世の中はとても環境に敏感になってきている。行政による厳しい許認可を受け、コンプライアンスを遵守し、徹底した処理フローをしなければ生き残れない。そうした企業には優良指定を受けることができるし、行政も後押しをしてくれる。産業廃棄物処理事業は環境ビジネスとして「廃棄」から「資源再生」へと変貌を遂げている。

株式会社ダイトクは、1976年の設立よりリサイクルに特化して事業を続けてきた、環境ビジネスの先駆者的な存在。社長の星山健さんは、天然資源に乏しい日本において、「宝」を生み出す資源の国内循環の取り組みに無限の可能性を感じているという。

「宿命に生まれ、運命にもまれ、使命に生きる」。 この言葉に定めを感じ、家業の環境ビジネスを受け継ぐ

星山社長は大学卒業後、事務機器販売会社に就職し、営業としてOA機器や事務用什器の販売に従事、順風満帆な人生を送っていた。しかし入社から10年、ベテラン営業マンとして次のステップに胸膨らませると同時に、もっと社会貢献につながる仕事がしたいとの思いが強くなった。「宿命に生まれ、運命にもまれ、使命に生きる」の言葉が幾度も頭をよぎった。考えぬいた末、リサイクルという仕事に「使命」を感じ、天から与えられた仕事、と家業に入った。

2007年、入社してわずか1年半で二代目社長として就任。会社の組織営業力の向上、コンプライアンス遵守、優良企業としてのイメージアップを図ることに注力してきた。だが決してトップダウンではない。納得の行くまで徹底して話し合った。その結果、半数の社員が入れ替わってしまった。それでも「諦めず熱意を込めて訴え続けることで、徐々に社員の意識も変わってきた。組織の若返りを図り、若手とベテランの良いところが引き出され、社内に活気が生まれた」。「社員の力量が上れば、その集合体が企業の発展に貢献する。社員のコミュニケーション、繋がりも大事で、相乗効果を生む。そういうシステムを作っていくのが経営者」との考え。

また営業の社員には「お客様の言うことを100%聞いていても感動はない。+20%して営業のファンはできる。要望を聞いて、うちはできないと諦めるのではなく、できるための知恵を出してほしい」と話している。

数々の優良認定取得で信用を獲得。 廃OA機器を高い技術力で99%再生資源化に成功



搬入されたOA機器が並び



分解粉砕され素材ごとに仕分けられる



トナーカートリッジは再利用のため洗浄される



困難とされているトナーの回収作業トナーも再利用される



床材、防音材の塩ビシート不良分、廃材を処理



塩ビシートを粉砕し素材に戻す

優良産廃処理業者認定(大阪府、埼玉県)や優良収集運搬業者認定をはじめ、数々の厳しい認定を受け許可されている。社員も積極的に関係分野の資格を取得。また、グリーン経営認証や安全性優良事業所の認定を受けている。環境に携わるものとして、環境保全を経営の最優先事項として取り組んでいる。

現在、摂津に3拠点、高槻に2拠点、埼玉に1拠点のネットワークで産業廃棄物の収集運搬、中間処理、リサイクル処理をしている。特に廃OA機器類のリサイクル、廃プラスチックのリサイクル、ガラス・金属類のリサイクルと減容に取り組んでいる。

取り扱い品目として多いのが廃OA機器。徹底して分解し、本体の約99%を再資源化できるリサイクルシステムを構築している。廃トナーカートリッジは残留トナー粉による粉塵爆発の恐れがあると、業者の多くが処理を敬遠してきた。同社は設備の改良と研究を重ね、リサイクルトナーカートリッジとしてリユースしている。もうひとつは、防音材、床材などの塩ビシートの製造上の廃棄製品や建築現場での廃材を素材に戻す設備がある。

また、同社が取り扱う廃プラスチックの約半分を占めるのがペットボトル。洗浄後、容器、キャップ、ラベルに分別して減容化(切断、圧縮)して、中国へ直接輸出。中国の再生工場で、各種プラスチック原料に加工されている。中国政府から廃プラスチック輸出認定業者として認定書を取得している。この認定は全国でも約50社しかないそうだ。

同社は、東北大学との共同研究により、液晶パネルからレアメタルの1つ、インジウムを効率よく取り出す技術を開発に成功し、特許も取得した。「コストをかければ誰でも抽出できる。でもそれでは商売にならない。知恵を出し合い、ローコスト化に向け日々研究を続けている」。

インジウムの抽出では、大学との共同研究で特許を取得。 コンサル営業も。さらに循環型社会に貢献

環境ビジネスのリサイクル分野では、「都市鉱山ビジネス」が注目を浴びている。工業製品にはレアメタルなどの貴重な金属が多く含まれている。うず高くつまった産業廃棄物は、眠れる資源を含有する鉱山そのもの。その鉱山からどう抽出するのか。精度の高い分別にはまだまだ人の手が必要とのこと。

同社は、東北大学との共同研究により、液晶パネルからレアメタルの1つ、インジウムを効率よく取り出す技術を開発に成功し、特許も取得した。「コストをかければ誰でも抽出できる。でもそれでは商売にならない。知恵を出し合い、ローコスト化に向け日々研究を続けている」。

訪問する企業先へのコンサルティング営業にも力を注いでいる。産業廃棄物は、まだまだやっかいなゴミだという意識を持たれている。当社なら徹底して分解、選別し、資源として売却することもできると提案すると驚かれることもしばしば。大企業といえどもリサイクルの認識はまだだ。

「いまのリサイクル技術も2年後には変わっています。常に新しい知識と技術を習得し、資源循環型社会に貢献していきたいと考えています」と星山社長の将来展望はますます大きく膨らむ。



液晶パネルからインジウムを効率よく取り出す技術で取得した特許証

株式会社ダイトク 代表取締役社長 星山 健 (写真左)

本社・営業本部、リサイクルセンター:
〒566-0055
大阪府摂津市新在家2-1-1
TEL : 06(6827)1010
FAX : 06(6827)5525
http://www.daitoku-s.com



【事業概要】総合リサイクル・産業廃棄物処理他